

夏季少年ソフトテニス大会の中止及び新種目案について

●夏季少年ソフトテニス大会の中止について

清瀬市夏季少年ソフトテニス大会（以下、「大会」）は今年度で第60回の節目となる歴史のある大会です。今年度は令和7年6月21日土曜日に開催する予定でしたが、市報やホームページ等で募集及び市内中学校ソフトテニス部へ直接訪問して周知いたしましたが、中体連の日程が順延したことで大会の日程が重なってしまい、大会を開催できる参加者が集まらない状況となり、令和6年度に引き続き大会を中止する結果となってしまいました。

今後の大会について事務局と清瀬市ソフトテニス連盟（以下、「連盟」）で協議した結果、連盟から別紙の令和7年6月16日付「令和7年度清瀬市夏季少年ソフトテニス大会の中止について」が提出され、令和7年度大会の中止及び競技人口の回復やスタッフの確保が整うまでは、競技種目から脱退するという意志が示されました。

■ソフトテニス大会を中止する理由

1 競技の多様化による、競技者の減少

ソフトテニスには中学生から始めることが多く、小学生の競技人口が少ないため、サッカーや野球のような少年のチーム自体が存在しません。中学校の部活動についても、部員の確保や部活動の維持が困難になってきており、市内の子どもだけで大会開催することが困難な状況です。

2 競技運営のスタッフ不足

連盟の会員の年齢が高齢化しており、次世代の指導者が育成できていない状況であり、スタッフ不足により大会運営も困難な状況です。

3 競争偏重からの脱却

青少年問題協議会が主催する夏季少年体育大会は、競技性を追求した競争を目的にはしておらず、大会の形式としても再検討する時期を迎えています。

以上の理由により、夏季少年ソフトテニス大会を継続していくことが困難であるため、競技人口の回復やスタッフの確保により、大会が開催できるようになるまでは、夏季少年体育大会の種目から脱退することについて協議いただき、本会議にて採択いただきたいと思います。

●新種目案について

夏季少年体育大会において、従来の競技団体が主管した「試合形式」の大会から、専門的な技術がなくてもスポーツの楽しさや健康増進、仲間との協調など教育的な目的に沿った新種目を検討しており、ソフトテニス大会に替わって令和8年度から開催したいと考えております。開催時期は12月～3月の冬季開催を検討しています。新種目案につきまして協議いただきますようお願いいたします。

■新種目案

1 サッカー個人技術記録会

清瀬市体育協会ではサッカー連盟と女子サッカー連盟が所属しており、競技人口も多いサッカーにおいて、地域の青少年健全育成に貢献する意義が大きいと考えます。開催形式を「個人」とし、「試合」ではなく「記録会」とすることでだれでも参加しやすくなっており、各種目で表彰するなどの競技性も持ち合わせています。また、様々な学年の子どもを混ぜて班行動させることにより、協調性や連帯感を創出する仕掛けを作ります。種目はドリブル・ロングキック・PKなどで、各種目と全種目総合の成績優秀者を表彰します。参加者は毎年参加することで、自身の個人技術の向上や身体的な成長を実感することができます。

2 学校対抗昔あそび大会

清瀬市では主に学童クラブでけん玉・竹馬・コマといった昔あそびが行われており、生涯学習スポーツ課事業の「きよせけん玉の”Wa”」では年間249名の子どもと226名の保護者が参加するなど、清瀬市では昔あそびブームとなっています。昔あそびは多世代交流もでき、健全育成との相性が良いという特徴があります。また、参加者の連帯感を創出するために学校対抗の形式とし、校歌斉唱もプログラムに含めたいと考えています。低学年や体力に自信がない子どもでも参加できるように、「紙飛行機とぼし」や「糸電話」といった体力に依存しない種目も含めていき、「大縄飛び」「竹馬」「一輪車」「コマ」「けん玉」「メンコ」といった定番の種目も行います。専門的な競技団体がないため、大会運営主体をこれから作り出していく必要があります。小学校をはじめとする関係各所に運営協力を呼び掛けていきます。

■新種目の選定について

本会議において委員からのご意見をいただき、新種目の方向性についてお示しいただいた上で、事務局にて運営主体の構築等の準備を進めてまいります。